

看護師職能Ⅱ委員会

委員長：遠藤 瑞穂

1. 活動方針及び活動目標

1) 地域における連携・協働の推進に向けた情報収集・課題発見
2) 看取りへの対応の充実にに向けた体制整備に関する情報収集・課題発見
3) 日本看護協会のトピックスに対するタイムリーな情報収集・課題発見

2. 活動内容

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1) 地域における連携・協働の推進に向けた情報収集・課題発見 2) 看取りへの対応の充実にに向けた体制整備に関する情報収集・課題発見 3) 日本看護協会のトピックスに対するタイムリーな情報収集・課題発見	9月22日 11月24日 12月22日 2月22日 3月22日 全5回	48名

3. 活動実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
合同委員会 (職能Ⅰ・職能Ⅱ・ 地域包括ケア) 【マルイトOBPビル】	・患者・療養者の思いと生活が繋がるための看看連携の課題を明らかにする。 ・看護が繋がる仕組み・方略を検討する。	7月14日	25名
職能Ⅰ・職能Ⅱ 合同委員会	・10月16日：退院困難者と生活困難者について検討 ・1月19日：看護を実践する看護職の就業継続に影響する要因について情報収集	10月16日 1月19日 全2回	10月16日 20名 1月19日 22名

【活動の概要】

- 地域における連携・協働の推進に向けた情報収集・課題発見
 - 急性期病院では、退院後の生活をイメージする視点が乏しく、生活を見据えた調整、退院後の生活をイメージした看護サマリー作成ができていない状況がある。また、退院に向けた地域との関わりは、関係部署に看護師配置がされていない施設もあり、医療ソーシャルワーカー(MSW)主体で連絡・調整を行っており、看護の視点での連携・協働まで取り組めていない状況も認められた。看護サマリーや情報提供用紙等で掴みきれない内容は、直接電話で情報交換を行う等看看連携を強化していく必要がある。
 - 看護職能Ⅰ委員会との合同委員会にて、退院時同行訪問について情報共有を行った。医療ニーズの変化や疾病構造が複雑になり、回復期・慢性期病院に一旦転院し、自宅へ退院する状況や、急性期病院の在院日数がますます短縮され、医療依存度が高いまま自宅療養となるケースがあり、看護Ⅱ領域(介護・福祉関係施設・在宅等)に携わる看護職が同行訪問することの重要性を確認した。
- 看取りへの対応の充実にに向けた体制整備に関する情報収集・課題発見
 - 介護療養型医療施設では患者の重症度・医療依存度が増加し、入院から短期間で看取りとなる場合がある。患者や家族との信頼関係が構築できていない状況での看取りの難しさがある。
 - ACPについては、一部の施設ではエンディングノート等の活用がされているが、ACPについては、ま

だまだ普及されていない状況があり、介護施設等から緊急で病院受診した際に治療方針が決まっていない場合も多い。また、本人の意向が確認できない場合がある一方で、家族の希望や医療方針等で身体侵襲の高い治療が実施される状況もあり、対応する看護職のジレンマが大きい。病院外での看取りへの対応については、専門職以外の関わりも多く、同時に葛藤もある。ヘルパー等も含め、関わった人々で振り返る機会を設ける工夫が必要である。

- ・看護師配置は急性期病院より少ない中、医療行為が増加し、業務量の負担が離職の一要因となっている。

3) その他

- ・排泄ケアに関わる課題として、病院では夜間でも定時でのオムツ交換・排泄ケアを行っているが、患者の夜間睡眠時間への影響や介護者への負担等を鑑み、定時の交換という業務ではなく、患者の排泄量やパターンを把握することや、オムツの性能を知り、個々の状況にふさわしい排泄ケアをすることについて在宅を見据えたケアの必要性を再確認した。また、訪問看護におけるカスタマーハラスメント予防と対応、病院からの退院困難要因と地域での生活困難要因、看護師の就業状況・人材確保について情報共有をした。

4. 課題・その他

- 1) 看看連携研修にて患者の生活を知る研修企画を検討する。また、訪問看護師との情報交換を行い、退院調整における問題や課題を明確にしていく。
- 2) 看取り後に関わった人々でのデスカンファレンスの実施。ACPについて啓発資料等を活用し推進。
- 3) 「訪問看護師のためのカスタマーハラスメント予防・対応ハンドブック」の活用推進。
- 4) 看護職の就業継続に影響する要因についての継続的な情報収集の実施。